



全校研究だより

第5号

令和2年9月25日(金)

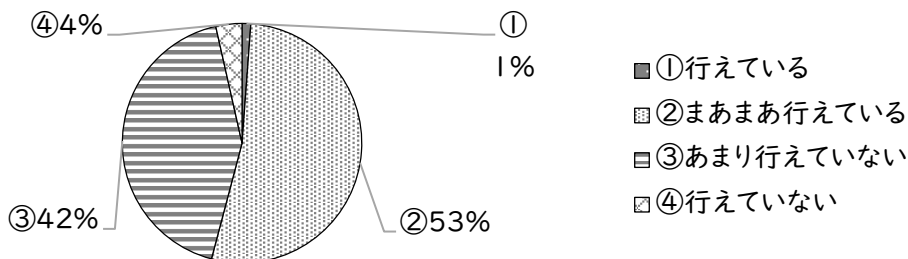
青森県立青森第二養護学校 研修部

自立活動に関するアンケート結果

(※対象者97名、回答者85名 回答率87%)

9月30日(水)、「なかまとともにによりよく生きる～自立活動の指導を通して、一緒に学ぼうコミュニケーション～」をテーマに専門性向上研修が行われます。テーマ設定にあたり、先生方の自立活動に関する具体的な課題意識等を探るため、アンケートを実施しました。

問1 自立活動の目標や内容の設定が適切に行われているか

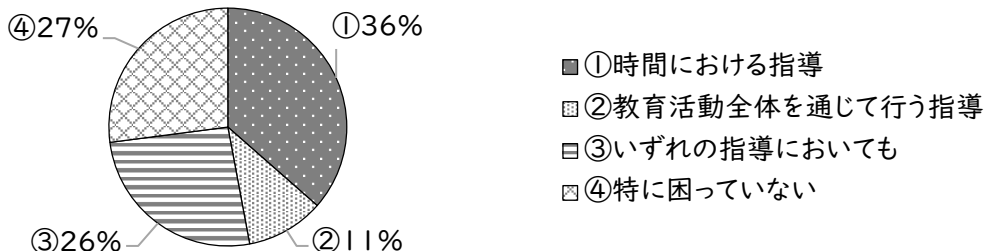


問2 自立活動の指導において、工夫していること、うまくいっていること

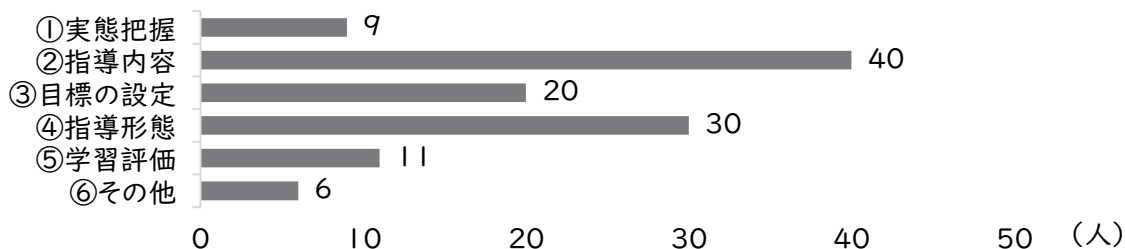
- ・実態把握に太田のステージ等の客観的指標を活用し、目標設定に役立てている。
- ・保護者と連携しながら生徒の実態に合った内容について取り組んでいる。
- ・担任教師間で、児童の実態について話し合い、支援の仕方、課題設定、教材作り等を行っている。
- ・ペア担やグループの先生と生徒の実態把握を丁寧に行うようにしている。
- ・自立活動のなかで課題学習を行い、その中でコミュニケーションなどの学習ができていると思う。
- ・集団での自立活動、個別での自立活動の時間をそれぞれ設定できているため、自立活動の領域に応じたねらい・目標に対してまんべんなく指導できている。
- ・設定場面だけではなく、生活全般にわたって行うことで、積み重なっている。

◎実態把握に客観的な指標を活用したり、教師間だけでなく保護者や施設等と連携を図ったりすることが適切な指導内容の設定につながっていると思われます。また、課題学習の中でコミュニケーションの指導を行うなど一つの学習で複数のねらいを設定する、ねらいに応じて指導形態を変える、他教科等と連携を図るなど、多様な学習を展開することで指導がうまくいっているという意見が出されていました。

問3 自立活動の指導において困っていること



問4 自立活動の指導において困っていること(※複数回答)



問5 具体的に困っていること、助言いただきたいこと

- ・コミュニケーションの指導(知的障害教育における指導、友達との関わり等)について(複数回答)。
- ・一人一人の理解力、社会性に差が大きいのでどの指導内容をどう落とし込むか、考えている。
- ・指導内容のマンネリ化(アイデアが少ない)。
- ・本来は多様な実態に応じて個別設定にしたいが、時間における指導は学級児童の人数が多いため、一斉指導にならざるを得ない実情がある。どうしても内容ありきになってしまいがちである。
- ・自立活動の時間に個別指導の態勢を取ることが難しいため、障害による個々の困難に対する指導を個別に行うことが難しい状況にある。
- ・授業の中でできていても、実際の生活場面で反映できていないことが多く、評価が難しい。(コミュニケーション、社会性)

◎実態差のある学習集団の中で、個々の学習上、生活上の困難に応じた指導を展開することに困難を感じている職員が多く、指導のマンネリ化や内容ありきの指導が課題として挙げられました。ねらいに対する効果的な指導方法や評価方法を知りたいという意見も多く、特にコミュニケーションの指導に関する意見は複数の回答が得られました。

問6 本校の自立活動の指導について課題、改善が必要だと思われるところ

- ・個々の目標設定は異なるが、課題ボックス中心の自立活動になりがちなので、指導内容のバリエーションを増やし、様々な生徒の課題や困難が克服できるよう、課題学習以外の内容について学びを深めたい。
- ・個別の自立活動の年間指導計画と、学級の自立活動の年間指導計画との整合性を図ることが難しいと感じる。
- ・教師間で、児童生徒個々の困難に対応した目標や指導内容の設定を意識して授業(自立活動)をするということの共通理解が必要。
- ・いろいろな先生方の指導の実際を知りたいので、専門性の高い先生から意見をもらったり、他学級の先生方と情報交換したりする機会があるといいなと思っている。

◎設問4と同様に指導のマンネリ化や内容ありきの指導が課題として挙げられました。職員同士の学びの場の設定を望む意見が多く出されたことについては、ぜひ希望者研修授業をご活用ください。希望者研修授業では、助言してほしい相手を学部を超えて指名することができ、今年度は1件実施されました(9月11日現在)。また、ITEMS(職員の作成した教材等のデータ共有フォルダ)を覗いてみると、指導のヒントが得られるかもしれません。

☑「希望者研修授業」については、担当(小学部 鎌田、中学部 横山、高等部 米持)にお問い合わせください!

◎以上のアンケート結果から、専門性向上研修では、「コミュニケーションの指導」に関する講演内容を設定しました。教材や内容、方法等の具体例を講演していただくことで、学級の児童生徒の実態に応じた指導モデルを先生方がイメージし、指導場面につながるような研修会を計画中です。お楽しみに!

専門性向上研修 講師紹介

敦川真樹(つるかわ まさき)先生



- ・森田養護学校で採用となり、教員生活をスタート。
- ・青森県総合学校教育センター特別支援教育課の指導主事及び課長、青森第一養護学校校長、八戸第一養護学校校長を歴任。
- ・平成28年度末、退職。
- ・退職後、現職である「弘前大学 大学院 教育学研究科 教職実践専攻(教職大学院)」教授となる。
- ・専門は、特別支援教育と教育相談。

研究係より



今回のアンケートの結果から自立活動の指導に対して不安を感じている先生が4割以上いることが分かりました。言うまでもなく、特別支援教育において自立活動は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導領域であり教育課程上重要な位置を占めています。講師の敦川先生は、障害の重い子どもや発達障害を含む多様な障害のある子どもと向き合い、実践を積み重ねてこられた先生です。この機会に学びを深め、わたしたちの自立活動の指導の一層の充実を目指していきましょう。